

2020年度事業報告

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第68回総会（2020年9月12日～14日）
会場：神戸国際会議場、神戸ポートピアホテル、神戸国際展示場
会長：竹末 芳生（兵庫医科大学感染制御学）
2. 第67回東日本支部総会（2020年10月21日～23日）
会場：グランドニッコー東京 台場
会長：石井 良和（東邦大学医学部微生物・感染症学講座）
3. 第68回西日本支部総会（2020年11月5日～7日）
会場：アクロス福岡
会長：柳原克紀（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・診断学分野）

B) 会務

1. 年度末正会員数 8,188名
年度末賛助会員数 22団体、団体会員数 100団体
2. 2020年度評議員会、同定期総会は2020年9月12日に神戸国際展示場で開催された。
3. 新評議員（2020年4月～2021年3月）
東日本支部5名（現在 210名）
沖中 敬二（国立がん研究センター東病院総合内科）
亀井 潤（自治医科大学附属病院腎泌尿器外科学講座泌尿器科学部門）
西田 智（帝京大学医学部微生物学講座）
桧山 佳樹（函館五稜郭病院泌尿器科）
宮崎 淳（国際医療福祉大学成田病院／市川病院腎・泌尿器外科）
西日本支部6名（現在 196名）
恵谷 俊紀（名古屋市立大学大学院医学研究科腎・泌尿器科学分野）
小宮 幸作（大分大学医学部呼吸器・感染症内科学講座）
坂本 憲穂（長崎大学病院第二内科）
定平 卓也（岡山大学病院泌尿器科）
東郷 容和（医療法人協和会協立病院泌尿器科）
輪島 丈明（名城大学薬学部微生物学研究室）

4. 理事会 6 回開催

2020年5月、7月、9月（2回）、11月、2021年2月

C) 事業報告

1. 編集委員会

1) 日本化学療法学会雑誌（委員長 小林 治）

・編集委員会 4回開催

・編集状況

2020年 第68巻3号～6号

一般誌 4冊（掲載論文数18編）

2021年 第69巻1号～2号

一般誌 2冊（掲載論文数6編）

新薬特集号（ラスクフロキサシン） 1冊（掲載論文数9編）

その他編集中 1冊

2) Journal of Infection and Chemotherapy（委員長 高橋 聡）

・編集委員会 1回開催

・編集状況

2020年

Vol. 26 No. 4～12（掲載論文数 191編）

2021年

Vol. 27 No. 1～3（掲載論文数 98編）

・Reviewer of the yearを選考し、青木洋介理事（佐賀大学医学部附属病院感染制御部）および土井洋平氏（藤田医科大学）が受賞した。

・JIC Award受賞

Yukihiro Yoshimura, Hiroaki Sasaki, Hiroshi Horiuchi, Nobuyuki Miyata,
Natsuo Tachikawa

「Clinical characteristics of the coronavirus disease 2019 (COVID-19)
outbreak on a cruise ship」 (Vo.26 No. 11 p. 1177～80)

2. 学術委員会（委員長 山本新吾）

・学術奨励賞受賞者

第68回総会

基礎部門

長岡里枝（広島大学病院診療支援部感染症検査部門）

「侵襲性肺炎球菌感染症の現状と分離株の検討」

臨床部門

山田康一（大阪市立大学大学院医学研究科臨床感染制御学）

「血液培養結果報告方法の変更は菌血症の予後を改善できる
～Weekend effect 対策として～」

日本化学療法学会雑誌 第68巻6号 p. 608-618, 2020

片田佳希（京都府立医科大学附属病院薬剤部）

「体重に応じたテイコプラニン初期投与設計の有効性と安全性に関する検討」

Journal of Infection and Chemotherapy vol.26 (4) p. 367-371

都築 慎也（国立国際医療研究センターAMR 臨床リファレンスセンター）

「National trend of blood-stream infection attributable deaths caused by *Staphylococcus aureus* and *Escherichia coli* in Japan」

3. 学会賞選考委員会（委員長 西 順一郎）

志賀潔・秦佐八郎記念賞および上原感染症・化学療法研究奨励賞の候補者について検討し選考を行った。

志賀潔・秦佐八郎記念賞

受賞者：竹末芳生（常滑市民病院感染症科/兵庫医科大学感染制御部）

研究テーマ：Antimicrobial stewardship による感染症の治療と予防

上原感染症・化学療法研究奨励賞

受賞者：中南秀将（東京薬科大学薬学部病原微生物学教室）

研究テーマ：MRSA の感染症対策に貢献するバイオマーカーの解明と臨床応用を目指した基盤研究

4. 国際渉外委員会（委員長 大毛宏喜）

1) Asia-Pacific Society of Clinical Microbiology and InfectionのExecutive Committeeの候補者について検討した。

2) 2021年にパース（オーストラリア）で開催する予定であった32nd International Congress of Antimicrobial Chemotherapy (ICC) が新型コロナウイルス感染症の影響により、2022年11月26日～30日に延期することになった為、当学会との共催シンポジウムの企画について再度、検討した

5. 3学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会（委員長 舘田一博）

フルオロキノロン系薬のブレイクポイント見直しについて検討を始めた。

6. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会（委員長 青木洋介）

・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催

年次テーマ：基本に立ち返る

第54回 e-learning※

第55回 2020年6月11日（木）神戸国際展示場

第56回 2020年10月21日（水）グランドニッコー東京 台場

第57回 2020年11月5日（木）アクロス福岡

※第54回は新型コロナウイルス感染症の影響により、東京国際フォーラムでの開催を中止し、後日、収録を行い、e-learning を実施した。

・委員会を数回、Zoom で開催した。

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、指導医試験の実施を延期した。
- ・本年度認定医・認定歯科医師の新規申請、認定更新申請を受付し、認定した。
- ・2021年1月1日付で認定証を発行した。
- ・抗菌薬適正使用生涯教育テキスト改訂版（2013年）の改訂作業を行い、10月に発行した。

7. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会（委員長 森田邦彦）

- ・第23回および第24回抗菌化学療法認定薬剤師講習会は新型コロナウイルス感染症の拡大により、やむなく開催を中止した。
- ・認定薬剤師試験を2021年1月31日（日）に砂防会館別館シェーンバッハ・サボーで実施した。
- ・2021年3月1日付で認定薬剤師を認定した。
- ・抗菌化学療法認定薬剤師テキストの改訂作業を行った。

8. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会（実務委員長 松本哲哉）

1) 第5回（2013年）

- ・歯科口腔外科領域感染症（初回：30薬剤・目標400株・解析847株）
Journal of Infection and Chemotherapy (JIC：2020:26(9)882-889) に論文が掲載された。

2) 第7回（2015年）

- ・複雑性尿路感染症（3回目:39薬剤・目標1000株・解析833株）
JICに論文が掲載された（2020:26(9):418-428）。
- ・耳鼻咽喉科領域（2回目:40薬剤・目標1000株・解析742株）
JICに論文が掲載され（2020:26(9):890-899）、corrigendumが掲載（2020;26(12):1337-1343）された。

3) 第8回（2016年）

- ・呼吸器感染症（8回目42薬剤・目標1000株・解析1062株）
JICに論文が掲載された（2020:26(9)873-881）。
- ・尿道炎（クラミジア）（3回目:9薬剤・目標200株・解析41株）
全国25施設より収集した41株の感受性測定解析し報告書にまとめた。

4) 第9回（2017年）

- ・小児科領域感染症（初回:32薬剤・目標1000株・解析926株）
JICに論文が掲載された（2021:27(2)139-150）。

5) 第10回（2018年）

- ・手術部位感染症（SSI）（3回目:43薬剤・目標1000株・解析498株）
成績を日本臨床微生物学会（2021年1月・Web）にて報告した。また、JICに論文を投稿し、受理された。
- ・歯科・口腔外科領域感染症（2回目:29薬剤・目標400株）
全国21施設より収集した558株で検体収集を終了し、分離・同定及び解析し、報告書にまとめた。

6) 第11回（2019年）

- ・呼吸器感染症（9回目）

全国 33 医療機関にて 42 薬剤 1100 株予定にて 12 月まで実施し、感受性測定中である。

- ・皮膚科領域感染症（2 回目）

全国 34 医療機関にて 34 薬剤 1000 株予定にて 8 月まで実施し、感受性測定中である。

7) 第 12 回（2020 年）

- ・単純性尿路感染症（3 回目）

参加 55 施設、581 株を収集した。

- ・複雑性尿路感染症（4 回目）

参加 42 施設、39 薬剤、目標 800 株で試験実施中である。

- ・耳鼻科領域感染症（3 回目）

全国 40 施設にて 28 薬剤 1000 株計画にて試験実施中である。

8) ホームページの更新

各領域の確定結果をデータベースにアップデートした。

9. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会（委員長 竹末芳生）

- ・「抗菌薬 TDM ガイドライン 2021」の原稿を執筆した。
- ・当委員会で 14 編の原著論文を執筆し、JIC および他誌の英文雑誌に投稿した。
- ・バンコマイシン TDM ソフトウェアおよび Web セミナーをホームページに掲載した。

10. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会（委員長 三笠桂一）

- ・「JAID/JSC 感染症治療ガイドライン 2017—男性尿道炎とその関連疾患—」の英語版を JIC に投稿し、掲載された。
- ・「JAID/JSC 感染症治療ガイドライン 2017—敗血症およびカテーテル関連血流感染症—」の英語版を JIC に投稿し、掲載された。

11. 術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会（委員長 竹末芳生）

術後感染予防抗菌薬ガイドラインの眼科領域および脳神経外科領域の追補を作成し、日本化学療法学会雑誌 68 巻 3 号（5 月）に掲載した。

12. CDI診療ガイドライン作成委員会（委員長 國島広之）

「*Clostridioides (Clostridium) difficile* 感染症診療ガイドライン」の英訳版の作業を開始した。

13. 7 学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会（委員長 舘田一博）

2020年12月4日に委員会を開催し、1) 日経・FT感染症会議、2) 製薬協における活動状況、3) AMEDにおける活動状況についての報告会を行った。

14. 抗微生物薬適正使用推進検討委員会（委員長 川口辰哉）

- 1) 第2回ASP全国アンケートの解析および結果報告
 - ・第68回日本化学療法学会総会 委員会報告（2020年9月14日）

- ・論文発表 Maeda M et al., Impact of health policy on structural requisites for antimicrobial stewardship: A nationwide survey conducted in Japanese hospitals after enforcing the revised reimbursement system for antimicrobial stewardship programs. JIC 27:1-6, 2021.
- ・和文誌への掲載：日本化学療法学会 抗微生物薬適正使用推進検討委員会委員会報告。「第2回抗菌薬適正使用支援プログラム全国調査アンケート；2018年度診療報酬改定後における感染防止対策加算の算定種類別解析」68 (6) p. 599-607, 2020.

2) 委員会開催

第1回会議 2020年11月26日 (Web会議)

15. 外来抗菌薬適正使用調査委員会 (委員長 大曲貴夫)

- ・全国の診療所で働く医師を対象とした第1回アンケート調査 (2018年2月) の追加解析をJICに投稿し、27巻2号 (2021年) に掲載された。
- ・外来抗菌薬適正使用調査委員会による第2回アンケート調査を実施し、集計を行った。
- ・外来診療における抗菌薬適正使用を一層推進するため、日本化学療法学会および日本感染症学会理事会宛に提案を行った。

16. 学術集会開催支援ワーキング (委員長 石井良和)

2021年および2022年に開催の各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書について確認した。

17. 社会保険委員会 (委員長 迎 寛)

医療機器・体外診断用医薬品供給停止品目および経過措置移行予定品目、2022年診療報酬改定について検討した。

18. インфекションコントロールドクター (ICD)制度

2020年12月 認定者31名

19. 利益相反委員会 (委員長 木村利美)

「日本医学会 COI 管理ガイドライン」の一部改定に伴い、本学会の「医学研究の利益相反 (COI) に関する指針」を一部改定し、2020年9月1日より施行した。

(2) 2020年度事業報告の附属明細書について

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告附属明細書「事業報告書内容を補足する重要な事項」に記載すべき事項はない。

2021年度事業計画

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第69回総会（2021年5月7日～9日）
会場：パシフィコ横浜 会議センター
会長：松本哲哉（国際医療福祉大学医学部感染症学講座）
2. 第68回東日本支部総会（2021年10月27日～29日）
会場：東京ドームホテル
会長：長谷川直樹（慶應義塾大学医学部感染症学教室）
3. 第69回西日本支部総会（2021年11月5日～7日）
会場：長良川国際会議場・都ホテル岐阜長良川
会長：保富宗城（和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
4. 本年関連国際学会として
18th Asia Pacific Conference on Clinical Microbiology and Infection
2021年11月11日～13日（シンガポール）

B) 会務

1. 理事会、評議員会の開催について
理事会年5回、評議員会 年1回を予定
2. 関連団体への対応
日本医学会に評議員及び医学用語委員会委員を、内科系学会社会保険連合にそれぞれの委員を派遣する。

C) 事業計画

1. 編集委員会

- 1) 日本化学療法学会雑誌
 - ・6冊発行予定（第69巻3～6号、第70巻1～2号）
 - ・編集委員会を4回開催する。
- 2) Journal of Infection and Chemotherapy
 - ・電子版12号を発刊する予定。
 - ・編集委員会を数回、開催する。
 - ・JIC賞の選考を行う。
 - ・Reviewer of the yearを検討する。

2. 用語委員会（委員長 清田 浩）

抗菌化学療法用語集の改訂および真菌名に関する学会としての取り決めを検討する予定である。

3. 学術委員会

学術奨励賞を選考する。

4. 学会賞選考委員会

志賀潔・秦佐八郎記念賞および上原感染症・化学療法研究奨励賞の選考を行う。

5. 国際渉外委員会

2020年11月にシンガポールで開催する予定であった関連国際会議の18th Asia-Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infectionが新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年11月11日～13日に開催されることになり、当学会との共催セッション「Current status of ESBL producing bacterial infections」および「Management of Blood stream infections」を行う予定である。

6. 三学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会

カルバペネム系薬およびフルオロキノロン系薬（ラスクフロキサシン）のブレイクポイントを公表する予定である。

7. 薬剤感受性検査検討委員会（委員長 石井良和）

微量液体希釈法とディスク拡散法のデータの相関性を検証し、抗菌薬のディスク含量を決める予定である。

8. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会

1) 抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催予定

年次テーマ：考え抜く

第58回 2021年5月7日（金）パシフィコ横浜 会議センター

第59回 e-learning※

第60回 2021年10月27日（水）～29日（金）東京ドームホテル

第61回 2021年11月5日（金）～7日（日）岐阜長良川国際会議場

※第59回は新型コロナウイルス感染症の影響により、収録を行い、後日、e-learningを実施する予定である。

2) 抗菌化学療法認定医および指導医の資格認定

・10月末 指導医・認定医・認定歯科医の認定申請を締め切る。

・11月28日（日）に砂防会館別館シェンバッハ・サボーで2020年度に指導医試験を受験する予定であった受験者も含めて試験を実施し、認定審査の委員会を開催する。

・2022年1月1日付けで認定

上記事業計画を円滑に遂行するため、委員会を数回開催予定。

9. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会

・第23回講習会は日本TDM学会がWeb開催となる為、e-learningで実施する予定である。

・第24回講習会は日本医療薬学会年会前日の2021年10月7日（金）に熊本城ホールにて開催する予定であるが、今後の新型コロナウイルス感染症の感染拡大によっては

開催形式を変更する予定である。

- ・新型コロナウイルス感染症の影響による2020年度の認定薬剤師の追試試験および2021年度の認定薬剤師試験を実施し、認定を行う予定である。
- ・2020年度の追試試験の合格者は、認定日を遡って2021年3月1日付で認定証を発行する予定である。また、2021年度の認定者は2022年3月1日付けで認定証を発行する予定である。
- ・抗菌化学療法認定薬剤師テキスト改訂版を発行する予定である。

10. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会

1) 第8回(2016年)

- ・尿道炎(淋菌)(3回目)
論文を執筆しJICに投稿予定である。
- ・尿道炎(クラミジア)(3回目:9薬剤・目標200株・解析41株)
論文を執筆しJICに投稿予定である。

2) 第10回(2018年)

- ・手術部位感染(SSI)(3回目)
成績を日本化学療法学会・日本感染症学会合同学会(2021年5月・横浜)にて報告する予定である。
- ・歯科口腔外科領域(2回目)
成績を日本化学療法学会・日本感染症学会合同学会(2021年5月・横浜)および日本臨床微生物学会(2022年1月)にて報告する予定である。

3) 第11回(2019年)

- ・呼吸器感染症(9回目)
全国33医療機関にて収集した菌株の感受性測定の解析を行い、報告書にまとめる予定である。
- ・皮膚科領域感染症(2回目)
全国34医療機関にて収集した菌株の感受性測定の解析を行い、報告書にまとめる予定である。

4) 第12回(2020年)

- ・単純性尿路感染症(3回目19薬剤・581株)
全国55施設より収集した菌株の感受性測定を開始し、解析・報告をする予定である。
- ・複雑性尿路感染症(4回目39薬剤、目標800株)
全国47施設より収集した菌株の感受性測定を開始し、解析・報告をする予定である。
- ・耳鼻科領域感染症(3回目)
全国40施設にて28薬剤1,000株計画にて試験実施中である。

5) 第13回(2021年)

- ・小児科領域感染症(2回目)
全国24施設にて32薬剤1,000株計画にて実施準備中である。

- 6) 尿道炎（淋菌）（4回目）
岐阜大学が経年的に実施のサーベイランスに統合する形態にて実施する予定である。
- 7) ホームページの更新
各領域の確定結果をデータベースにアップデートする。
11. レジオネラ治療薬評価検討委員会（委員長 宮下修行）
JIC にサブ解析を投稿する予定である。
12. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会
抗菌薬 TDM ガイドライン改訂版 2021 を発行する予定である。
13. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会
JAID/JSC 感染症治療ガイド 2019 の改訂作業を始める予定である。
14. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会（委員長 光武耕太郎）
Minds に基づいて、MRSA 感染症の治療ガイドラインの改訂作業を実施する予定である。
15. 術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会
術後感染予防抗菌薬ガイドラインの眼科領域および脳神経外科領域の追補を含めた冊子を発行する予定である。
16. CDI診療ガイドライン作成委員会
 - ・「*Clostridioides (Clostridium) difficile* 感染症診療ガイドライン」の英訳版を JIC に投稿する予定である。
 - ・「*Clostridioides (Clostridium) difficile* 感染症診療ガイドライン」の改訂作業を始める予定である。
17. 多剤耐性菌に対する治療戦略ワーキング委員会（委員長 大毛宏喜）
委員会主導で実施した基盤研究を基にして、臨床研究の実施を予定している。
18. 7学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会
Pull型のインセンティブの導入の実現に関して引き続き検討を行う予定である。
19. 抗微生物薬適正使用推進検討委員
 - 1) 第2回ASP全国アンケート結果の活用について
2022年度診療報酬改定の第一次評価提案書への反映
 - 2) ASPガイダンスの改訂について検討する
20. 外来抗菌薬適正使用調査委員会
外来抗菌薬適正使用調査委員会による第2回アンケートの調査結果を第69回日本化学療法学会総会/第95回日本感染症学会学術講演会合同学会の委員会報告で報告する予定である。

21. 学術集会開催支援ワーキング

各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書を確認する予定である。

22. 社会保険委員会

医療機器・体外診断用医薬品供給停止品目および経過措置移行予定品目に関する検討を行う予定である。

23. 利益相反委員会

日本医学会の動向をみて、利益相反指針および細則を改定する予定である。

24. 倫理委員会

要望があれば適宜、対応していく予定である。

25. インфекションコントロールドクター(ICD)制度

申請締切：2021年10月31日